

第234回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成29年12月11日(月) 16:00~17:00

2 開催場所 エフエム栃木 3階 第2スタジオ

3 委員の出席 委員総数 6人
出席委員数 5人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
早川 富美子
小笠原 伸

(2) 欠席委員の氏名 篠田 裕次

(3) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)
佐藤 望 (放送部長)
古寺 雄史 (総務部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

11月26日(日曜日)夜7時から放送した、「ラジオスターがお悩みに回答!10代限定相談室」について、試聴と意見交換をおこなった。

事業者:

日本民間放送連盟のラジオ委員会は、NHKと共同で、スマートフォンでラジオを聴こう!キャンペーン「#スマラー」を実施しています。今回、そのキャンペーンの目玉企画として、1964年から50年間にわたって放送されたラジオ界の名物番組『こども電話相談室』が、NHK・民放ラジオの特別番組として復活し、各局が放送しました。

回答者は、渡辺直美、高橋みなみ、南海キャンディーズの山里亮太の3名。

MCの神門光太朗 NHKアナウンサーとともに、10代のお悩み相談に回答しました。

【 番組の試聴 】

委員：

「10代限定相談室」と銘打っていたが、大人が聞いても面白い内容だ。
出演者の人選、企画も練られており、番組全体の構成も抜け目がない。
別の番組に切り替える隙がないほどに楽しく聴けた。

委員：

街頭での若者へのインタビューから始まる冒頭部の演出は効果的で、聞き耳が立った。
また、番組を通しての展開もスムーズで、ところどころで使われていたBGMの選曲も良い。

委員：

タレント回答者の3人は、いずれも発音が明瞭で、NHKのアナウンサーにも引けを取らない程、
その会話が聞きとりやすかった。
特に、渡辺直美さんは声質がとても良く、彼女のマルチな才能に改めて感銘を受けた。

委員：

回答者のコメントは、核心をついた的確なもので、相談者の若者にとって貴重なアドバイスに
なったと思う。特に、体型へのコンプレックスを持った相談者が憧れていた渡辺直美さんと話し、
ポジティブな彼女の実体験に基づいたアドバイスを受けた場面は印象深かった。

委員：

回答者のトークスキルの高さゆえに、お悩み相談番組としての色が薄れ、トーク番組寄りにな
っていた。また、南海キャンディーズの山里さんが、場の仕切りや進行までも巧みにこなして
いたがため、対照的にNHKアナウンサーの役割が薄れてしまった。

委員：

この特別番組の原型になった「子供電話相談室」は、電話をかけてきた子供の咄嗟な質問に対し、
即座に専門知識や経験から臨機応変に回答するという形式だった。
今回の特別番組では、あらかじめ質問を募集し、街角インタビューでその質問に対する意見を
収集し、それらを踏まえて回答者がコメントするという、より手間のかかった新しいスタイルに
なっていた。今の時代に適合した面白さ・興味深さを持ったものに進化したといえる。

委員：

体型へのコンプレックスについての相談があったが、これをテレビなどの映像メディアで伝えた
場合、そこに本人やイメージ映像が付加されることで、概して、頭の中で想像する自由度が制限
されてしまうだろう。
放送された質問は総じて思春期特有の悩みともいえ、一人の悩み事を、聴取者それぞれが共有し、
その会話から自然と想像力を掻き立てながら、相談を自分自身のことのように受け止める姿勢で
聴けるのは、ラジオ番組だからこそだと思う。

事業者：

このような対話形式の相談番組は、ラジオ向きであり、かつ生放送にも適しているコンテンツだ。
ただ、今回は各局の編成上の都合で放送枠が統一できず録音番組となった。

委員：

ラジオ、テレビ、インターネットは、それぞれメディアとしての特性が違い、ラジオは音のみで伝えるメディアであり、心に直接伝わりやすい利点がある。

今回のお悩み相談番組は、ラジオならではの特性を活かして作られていた。

委員：

かつては、リスナーが葉書を投函することで双方向に繋がっていたラジオ番組も、昨今のパソコンやスマートフォンの普及により、リアルタイムで繋がるようになった。

今、SNSが人々のコミュニケーションの中心となっているが、ラジオには、自宅でも学校や職場でもないサードプレイス上での滞留の場としての役割が求められている。

委員：

「スマラー」と銘打ったキャンペーンを展開し、若い世代にもラジオの魅力をアピールするべく、NHKと民放とが共同で特別番組を制作・放送したことは大変、意義がある。

ただ、このNHK・民放連共同ラジオキャンペーン第1回の名称が、「はじめまして、ラジオです。」であったことが端的に示しているように、ラジオを持っていなかったり、ラジオに対して全く関心を示さない若者も多い。

さらに、スマートフォンでラジオを聴けることが分かって、今の若者がラジオを聴く時間を取れるのかは疑問がある。想像以上にラジオ離れが進んでいる現実もある。

委員：

ラジオのライバルは、もはやテレビに限らない。インターネット上の有料会員制サービスが、かなりの勢いで浸透し始めている。

また、震災を機に、災害時のラジオの有効性が再認識されたが、平常時にはラジオから離れているために、緊急時にラジオを持っていない、使えないという状況が多くみられる。

委員：

世代によってメディアへの嗜好性が大きく異なる時代の中、特にラジオ離れが顕著になっている若い世代と如何にして接点を作っていくかは業界全体の課題であろう。

その厳しい現実から目を背けることなく、ラジオも番組コンテンツを充実させ、競争力を強化していく必要がある。

インターネットを番組の中で活用しつつもインターネットとは違うものを提供してほしい。

そういう意味では、今回の試聴番組は、ラジオの今後の可能性が感じられる、とても意欲的なものだった。

委員：

今の若者はラジオを聞かなくともSNSで繋がっている世代であるが、我々が若者の頃は、受験勉強の時などラジオがいつも机の上であり、ラジオに励まされながら育った想いがある。

今後も、すべての世代にとって親近感を感じるメディアとして存在感を示し続けてほしい。

ずっとラジオを応援していきたい。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を平成30年1月15日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 12月31日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし